


# 空調設備を更新し、安心・安全な教育研究環境・避難生活環境を確保する（東京都渋谷区）


事業者：文部科学省

実施前


空調機外観




空調機内部




※更新前は錆付き、腐食、目詰まりによる機能不全の状態



実施後





## 対策名：18 国際連合大学本部施設の安全確保対策

主たる施策グループ：1-1) 大規模地震に伴う、住宅・建物・不特定多数が集まる施設等の複合的・大規模倒壊による多数の死傷者の発生 教育・文化等

## 事業名：国連大学本部施設の空調設備更新

- ポイント**
- 老朽化した空調設備を更新
  - 安全・安心な教育研究環境と災害時の避難生活環境を確保

### 地域の概要・課題

国連大学は日本に本部を置く唯一の国連機関であり、研究機能のほか、世界中から学生を受け入れる教育機関としての機能も果たしています。

その本部施設は、文部省（当時）が1992年に建設し無償で供用している国有財産です。竣工後約30年が経過し、施設の老朽化が進行しており、特に空調設備の不具合は、災害時の帰宅困難者受入施設における感染症対策の観点からも喫緊の課題でした。

### 事業の概要

本部施設の空調機は著しい経年劣化等により、空調機内部の腐食や目詰まりによる不具合が発生しているほか、空調監視制御システムコントローラーも保守部品の生産が終了し、修理が不可能な状態でした。

地上14階、地下1階の本部施設全体に配置されている全29か所の空調機を順次改修しています。具体的には、劣化したファンや目詰まりした熱交換器を含む空調機の取換えや、監視制御システムの更新を行っています。

### 見込まれる効果

国連大学本部は、国内外の要人を含めた外部の利用者も多く、在籍する学生や研究者のほか年間約8万人の利用実績があります。（2018年当時）また、災害時の帰宅困難者受入施設として、最大400人の受入れが想定されており、都内有数の乗降客数である渋谷駅近傍に位置し、一時退避場所となる青山学院大学に隣接する大型施設として、当該地域の防災において重要な施設です。

我が国に本部を置く唯一の国連機関に対して、安心・安全な教育研究環境を提供し、日本国としての責任を果たすとともに、災害時の避難生活中の感染症拡大のリスクを軽減することで、災害時に甚大な被害が出ることを防止します。

具体的には、空調機の更新により換気風量が改善することで、以下のような効果が得られます。

- 新型コロナウイルスを含めた感染症対策
- 各部屋の新鮮空気増加による執務環境改善
- 空調効率上昇による部屋の温湿度改善

1 激甚化する風水害や切迫する大規模地震等への対策  
(1) 人命・財産の被害を防止・最小化するための対策

(2) 交通ネットワーク・ライフラインを維持し、国民経済・生活を支えるための対策

2 予防保全型インフラメンテナンス  
への転換に向けた老朽化対策

(1) 3 国土強靱化に関する施策を効率的に進めるためのデジタル化等の推進  
デジタル化に関する施策の

(2) 伝達の高精度情報化の予測、収集・集積・